

広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	日本語の条件表現における「ば」、「たら」、「と」形式
Author(s)	ニサンサラー セツワンディ,
Citation	日本語・日本文化研修プログラム研修レポート集, 30期 : 42 - 51
Issue Date	2015-10-30
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00038675
Right	
Relation	



日本語の条件表現における「ば」、「たら」、「と」形式

ニサンサラー・セツワンディ

1. はじめに

日本語の条件表現の研究は、日本語学的なものから日本語教育的なものまで数多く行われてきた。それは条件表現というものが、外国語として日本語学習の初級段階から導入され、日本語文法習得上、欠かせない重要な要素であるからではないだろうか。日本語には「ば」、「たら」、「と」、「なら」等の多様な条件表現がある。そのため、外国語として日本語を学ぶ学習者にとって日本語の条件表現の習得は難しい。条件表現が多様である言語とそうではない言語を母語とする学習者はどのように日本語の条件表現を習得するのか、習得上どのような問題を抱えているのかなどを明らかにすることは第二言語習得研究において有意義だと思われる。

日本語の条件表現である「ば」、「たら」、「と」形式は仮定表現を表すとき、同じような場面で用いられるので、外国語として日本語を学ぶ学習者にとってそれぞれの形式の使い分けをマスターするのは非常に困難である。そこで、日本語における条件表現の「ば」、「たら」、「と」の使い分けについて考察をしたい。例えば、

1. お金を入れてボタンを押せば切符が出てきます。
2. お金を入れてボタンを押したら切符が出てきます。
3. お金を入れてボタンを押すと切符が出てきます。

という例文に見られる「ば」、「たら」、「と」形式の意味と用法の違いは、非日本語母語話者にとって難しい。

そこで、本研究では、「ば」、「たら」、「と」形式を外国人学習者はどのように使用しているのかを解明するためにアンケート調査を行い、さらに先行研究を参考に、母語話者がどのようなルールに従って「ば」、「たら」、「と」形式を使用しているのかということ調べ、それに従って、外国人学習者が「ば」、「たら」、「と」形式を正しく使用できるような方法を見つけることを当初の目標とした。しかし、母語話者の回答が先行研究から予想されたものと異なっていることがアンケート調査で明らかになったため、今回の研究では、母語話者による条件表現「ば」、「たら」、「と」形式の使い分けを中心に考察を進めることとした。

本研究でのアンケート調査対象者は、外国人学習者20人と母語話者20人の合計40人である。¹

¹このレポートでは母語話者のアンケート調査の結果のみ使用している。

2. 先行研究

2.1 定義と分類

従来の研究では日本語における条件表現は色々なように定義と分類されている。

- 有田節子 (2007)

「条件文が不確定な知識に基づく推論を明示する構文であると考える。」

- 小林賢次 (1996)

「条件表現は、広く接続表現とされるもののうち、「テ」や「ツツ」などによる事態の単なる時間的連続、あるいは並行的な現象として把握されるものを除き、前件と後件とが、何らかの因果関係を持って接続されるものをさす。いわゆる、順接条件、逆接条件の両者、仮定条件、確定条件の両者をともに含む。」

- 庵功雄、高梨信乃、中西久実子、山田敏弘 (2008)

「条件とは、二つの事柄（前件と後件）の依存関係すなわち、後件が前件に依存して起こるという関係を表すものです。」

- 林芳琪「条件表現—と、ば、たら、なら」

「有田 (1993 : 41) によれば、益岡、田窪 (1992) は条件表現を「二つの事態の間の依存関係を表すと定義している。これは、後件の事態の成立が何らかの意味で前件の事態の成立に依存するという意味である」と示している。」

- 三井はるみ「条件表現」

「複文の中で、後件の成立について前件が何らかの関係で条件となっていることを表す表現を条件表現という。条件表現は一方では、出来事を仮定的に予想しているのか（仮定）、実際に起こった出来事について述べているのか（事実、仮定）分かれ、他方で、順当に予想される結果が起こった場合（順接）とそうではない場合（逆接）に分かれて、全体として、次のような四つに分類されるのが一般的である。

	仮定	事実、確定
順接	努力すればできるようになる	努力したのでできるようになった
逆接	努力してもできるようにならない	努力したのでできるようにならなかった

ここではこの分類のうち共通語では「ば」「たら」「と」「なら」「ては」などが、順接の仮定条件文を構成する代表的な形式である。」

以上の説明から条件表現とは前件と後件の因果関係を表すものであるということが明らかになった。有田（2007）と三井はるみ「条件表現」の定義には問題があると思われる。有田は条件文が不確定な知識に基づく推論を明示する構文であると述べているが既に認識している事態に対しても条件文を使用できるので、条件文は不確定な知識だけでなく、確定的な知識にも基づいて作ることができる。さらに、三井はるみ「条件表現」によると共通語では「ば」、「たら」、「と」、「なら」、「ては」などが、順接の仮定条件文を構成する代表的な形式であるが、それぞれの形式は順接の確定条件文でも代表的な形式である。

2.2 「ば」、「たら」、「と」形式の用法

「ば」、「たら」、「と」などの条件表現は、日本語の文法表現における重要な問題として取り上げられる。日本語学の分野においては、益岡（1993）と寺村（1981）が日本語における条件表現の基本的特徴について述べている。日本語の条件表現は多様な類義表現を有し、「ば」、「たら」、「と」などの多様な形式があり、この三つの形式を入れ替えることができる場合が多い。そのため、従来の研究ではそれぞれの形式の中心的用法を明らかにすることを目的にしていることが分かった。

2.2.1 「ば」形式の基本的な用法

「ば」の基本的な用法は恒常的な依存関係を表わすこと、すなわち、ある条件が与えられればいつでも後件が成立するという一般的な因果関係を表すものである。必ずしも現在の状態を表すのではなく、基本的にはある条件が与えられた可能世界、すなわち非現実の事態を表している。例としては、①のような諺や②のような事態間の一般的依存関係を表す認識的な文が挙げられる。

- ① ちりも積もれば、山となる。（現在ちりは積もっていない）
- ② 品が良くて安ければ、よく売れます。（現実の状態かどうか分からない）

2.2.2 「たら」形式の基本的な用法

「たら」形式の基本的な用法は、「ば」形式の場合のように、ある条件が与えられたらいつでもこのようになるという恒常性ではなく、個別的事態、一回的事態の間の依存関係を表すことである。すなわち、前件で時空間の中に実現する可能性のある特定の個別的な事態を表し、後件でその実現に依存して成立する別の特定の個別的事態を表すのに用いられる。

- ③ 雨が降ったら今回のキャンプは中止です。

2.2.3 「と」の基本的な用法

「と」形式の基本的な用法は、反復的・恒常的に成り立つ依存関係性を表すものであり、前件と後件で表わされる二つの事態の一体性すなわち前件と後件の事態が継起的に実現するものとして分かちがたく結びついていることを示すのに用いられる。そして、「と」形式は、非現実の事態ではなく、現実を観察される事態を表す際に用いられる。例えば、④のような自然現象⑤のような習慣⑥のような機械の操作とその結果を表す文が挙げられる。

- ④ 3月になると、桜が咲き始めます。
- ⑤ 毎日朝起きると、紅茶を一杯飲みます。
- ⑥ お金を入れてボタンを押すと、切符が出てきます。

日本語の母語話者は従来の研究で説明されているようなルールに従って「ば」、「たら」「と」形式を使用しているのだろうか。

2.3 「ば」「たら」「と」形式が用いられる条件文の種類

2.3.1 「ば」形式

01. 恒常的な依存関係を表す条件

諺や事態間の一般的依存関係を表す認識的な文

例：ちりも積もれば、山となる。

品が良くて安ければ、よく売れます。

02. 仮定条件

前件である出来事が起こったと仮定して、後件の出来事を表現する文

例：もし、この仕事が片付けば皆休憩を取るだろう。

03. 前件に焦点がある条件

後件の成立が望まれているという文脈で、そのためにどんな前件が必要かを述べるような文

例：どうすれば、服が安く買えますか。

バーゲンの期間まで待てば、安く買えますよ。

04. 反事実的条件

現実と異なる事柄を仮定するような条件文

例：あと1000円あれば、このコートが買えるのに

2.3.2 「たら」形式

01. 特定の・一次的依存関係を表す条件

I 仮定条件

前件が成立するかどうか分からない場合

例：雨が降ったら、キャンプは中止です。

II 確定条件

前件が成立することが自明の場合

例：午後になったら、散歩に行きましょう。

02. 事実的な条件

前件と後件が既に成立している場合過去の事象

例：窓を開けたら、冷たい風が入ってきた。

2.3.3 「と」形式

01. 反復的・恒常的に成り立つ依存関係を表す条件

前件が起これば、通常に後件が起こるという関係を表す条件文

例：このボタンを押すと切符が出てきます。

三月になると、桜が咲き始めます。

02. 事実的条件

前件と後件が既に起こった事柄を表す場合の文

例：窓を開けると、冷たい風が入ってきた。

03. 発見を表す条件

前件の動作をした結果で後件の事柄を発見したという関係を表す条件文

例：四つ角を曲がると、すぐ彼のマンションが見えた。

2.4 「ば」、「たら」、「と」形式の共通点と相違点

「ば」「たら」「と」形式の使い分けを説明している先行研究によるとそれぞれの形式では以下のような共通点がある。

	ば	たら	と
現実的事態			○
非現実的事態	○	○	
恒常的事態	○		○
個別的的事態		○	○

「ば」形式と「たら」形式はいずれも非現実的事態を表すことができるという点で同様である。つまり、前件と後件の事態がまだ実現していないという意味を表している場合である。相違点としては、「たら」形式は個別的的事態を表すことができるのに対し、「ば」形式ははそうではない。

「ば」形式や「たら」形式と違って、「と」形式は非現実的事態を表すことはできない。しかし、「と」形式が恒常的事態を表すことができる点は「ば」形式と同様である。

2.5 「ば」「たら」「と」形式の後件に関する制限

2.2 で「ば」、「たら」、「と」それぞれの基本的な用法について説明した。その説明

でもそれぞれの用法は重なっているが、条件文の後件について着目すると、「ば」、「たら」、「と」の使い分けについての制限が見えてくる。

	意志. 希望. 命令. 依頼
「ば」形式	×
「たら」形式	○
「と」形式	×

先行研究では「ば」形式の場合、後件に意志、希望、命令、依頼などが来ることができないと述べられている。

例：帰国すれば／すると、彼と会いたいです。×

しかし、前件の述語が状態性の場合や前件と後件の主体が異なる場合、後件に意志、希望、命令、依頼などが来ることができる。

例：私の説明では問題になるものがあれば、また聞きに来てください。○

この文では前件が「問題になるものがある」という状態性を持つので、後件で「依頼」を使うことができる。

例：友達が私の家に来られれば、私も友達の家に行くつもりです。○

この文では「私の家に来る」という前件の主体は「友達」、「友達の家に行く」という後件の主体は「私」であり、前件と後件の主体が異なっている。そのため、後件では「意志」が使われている。

3. アンケート

今回実施したアンケートは下のとおりである。

スリランカから来たニサンサラーです。日本語日本文化研修生として広島大学の国際センターで勉強しています。修了論文で、「日本語における「ば、たら、と」の条件表現」について調べています。ご協力お願いします。

◎ () に入れる最もよいものをA、B、Cから選んでください。複数の答えが可能です。

1. 雨が () キャンプは中止です。 []

A 降れば B 降ったら C 降ると

2. ここに交番を () 犯罪がへると思いますよ。 []

A 作れば B 作ったら C 作ると

3. 教授のハンコをもらって () 用は済むから []

A 来れば B 来たら C 来ると

4. 3月の終わりに（ ）桜が咲き始めます。 []
 A なれば B なったら C なると
5. 明日に（ ）結果がわかる。 []
 A なれば B なったら C なると
6. デパートへ（ ）チョコレートが山積になっていた。 []
 A 行けば B 行ったら C 行くと
7. 四つ角を（ ）すぐ彼のマンションが見えた。 []
 A 曲がれば B 曲がったら C 曲がると
8. 家に帰って（ ）教授から電話がかかってきた。 []
 A 来れば B 来たら C 来ると
9. 太郎は部屋に（ ）帽子を脱いだ。 []
 A 入れば B 入ったら C 入ると
10. 朝（ ）紅茶を一杯飲みます。 []
 A 起きれば B 起きたら C 起きると

3.1 アンケートの結果

表1 日本人

		ば	たら	と
1	雨が（ ）キャンプは中止です。	16	17	6
2	ここに交番を（ ）犯罪がへると思いますよ。	17	14	9
3	教授のハンコをもらって（ ）用は済むから	17	14	9
4	3月の終わりに（ ）桜が咲き始めます。	15	14	16
5	明日に（ ）結果がわかる。	17	13	10
6	デパートへ（ ）チョコレートが山積になっていた。	0	16	16
7	四つ角を（ ）すぐ彼のマンションが見えた。	2	13	17
8	家に帰って（ ）教授から電話がかかってきた。	0	15	16
9	太郎は部屋に（ ）帽子を脱いだ。	3	11	19
10	朝（ ）紅茶を一杯飲みます。	2	17	9


 ー先行研究から予想された回答

表1は「ば」「たら」「と」形式を日本人はどのように使用しているのかを示したものである。つまり、「ば」「たら」「と」形式の実際の用法を示す。その結果から以下のことが分かった。

3.2 アンケートから分かったこと

- ① 雨が降れば/降ったらキャンプは中止です。
- ② ここに交番を作れば/作ったら犯罪が減ると思いますよ。

母語話者は「と」形式も使っている。その時「と」形式は前件と後件の一体性を表していると考えられる。「たら」の場合、そのキャンプはいつも行われているキャンプではないというニュアンスを持つ。

- ③ 教授のハンコをもらって来たら用は済むから

「たら」よりも「ば」のほうを使う母語話者のほうが多い。「ば」形式は非現実、つまり、まだ実現していない個別的事態であることを強調するために使われていると思われる。「たら」形式の場合、「用を済ませるための最低条件として教授のハンコをもらって来る」ということを表していると思われる。

- ④ 三月の終わりになると、桜が咲き始めます。

前件と後件の一体性を表すために「と」形式が使用されることが多い。しかし、母語話者は「ば」や「たら」形式を使うこともある。「ば」形式を使用している理由は三月の終わりになると桜が咲くことの条件であることを強調するためだと思われる。「たら」形式が使われた場合、その文はニュートラルなニュアンスを持つ。

- ⑤ 明日になったら結果が分かる。

「明日になる」という前件が確定的であるので、「たら」形式のみが使用可能のように思えるが、母語話者は「ば」形式も使用している。「ば」形式を使った場合は、「結果を知りたい。そのためには明日になるという条件が必要」というニュアンスを持つ。すなわち、「ば」形式は「明日になる」ことが結果が明らかになるための条件であることを強調していると言える。また、母語話者は反復的、恒常的依存関係を表す「と」形式も使っている。「と」形式が使われると、「毎年試験があり、その試験の結果は毎年試験が行われた日の次の日に発表されることになっている」というニュアンスを持つ。

- ⑥ デパートへ行くとチョコレートが山積になっていた。
- ⑦ 四つ角を曲がるとすぐ彼のマンションが見えた。

前件の動作をした直後、後件の事実が起こった、あるいは発見したという意味で「と」形式が使われる。母語話者はこの文で「と」と共に「たら」形式も使っている。「たら」形式の場合は前件で使われる行為を行ったことで、後件の出来事が起こった、あるいは、発見したことを中立的に表している。一方、「と」形式の場合は前件と後件の間に時間の差がほとんどないことを意味している。

⑧ 家に帰って**来ると**教授から電話がかかってきた。

⑨ 太郎は部屋に**入ると**帽子を脱いだ。

過去の一回限りの出来事に「と」形式を使っている。この場合前件と後件の間に意志的、計画的関係はない。「と」形式の場合、前件と後件との間に時間差がないというニュアンスがあるので、「部屋に入った途端に帽子を脱ぐことはない」と思う人は「と」形式を使わず「たら」形式を使っている。

⑩ **朝起きると**紅茶を一杯飲みます。

反復的な習慣を表しているので「と」形式が使われやすいだろうと予測したが、この文では「たら」形式を使う母語話者が多い。この場合でも、「と」形式と「たら」形式の違いは時間のずれを表している。前件が起きたらすぐ後件が起きるという意味の場合は「と」、前件と後件の間に時間があるという意味では「たら」形式が使われる。

4. 結論

先行研究を参考に、母語話者がどのようなルールに従って「ば」、「たら」、「と」形式を使用しているのかについて考察した。アンケート調査を行った結果、いくつかの場面において従来の研究書や文法書での説明とは異なる、「ば」、「たら」、「と」形式の使用実態があることが明らかになった。本研究の結論は以下のようにまとめられる。

1. それぞれの形式を使用する時、最も問題になるのは非常態的事態を表すときである。
2. 非常態事態を表す際に前件と後件の一体性を表すためには「と」形式が使用される。
3. 非現実的な個別的な事態を強調するためには「ば」形式が使用される。
4. 「たら」形式は個別的な事態を表すのに使用されるが、その場合、ニュートラルなニュアンスを持つので、最も使いやすい。
5. 「と」と「たら」形式がどちらも使用できる場合、前件と後件との間に時間の差があまりない場合は「と」形式が、そうではない場合は中立的な「たら」が用いられる。

5. 今後の課題

本研究では、先行研究の説明をもとに外国人学習者が「ば」、「たら」、「と」形式を正しく使用できるような方法を見つけたいと思っていたが、日本人にたいするアンケート調査ではその使用実態が先行研究の説明とは必ずしも一致せず、「ば」、「たら」、「と」形式の区別を体系的にまとめることができなかった。今後、「ば」、「たら」、「と」形式の使用実態についてさらに深く調べ、日本語母語話者によるその使用実態の違いを体系的にまとめることをの課題としたい。

6. おわりに

日本語には条件表現を表す形式が複数であり、その形式が表す意味の違いが明確ではないことが外国語として日本語を学ぶ学習者の習得を妨げる。そのため、日本語教育では「ば」「たら」「と」形式を日本語の母語話者が実際にどのように使用しているのかを調べ、それぞれの形式の区別を改めて説明する必要があると思う。

参考文献

- 益岡隆志編（1993）「日本語の条件表現」くろしお出版
- 寺村秀夫（1991）「日本語教育指導参考書5 日本語文法（下）」大蔵省印刷局
- 蓮沼昭子、前田直子、有田節子（2001）「条件表現（日本語文法セルフマスターシリーズ）」くろしお出版
- 庵功雄、高梨信乃、中西久実子、山田敏弘（2013）「初級を教える人のための日本語文法ハンドブック」スリーエーネットワーク
- 小林賢次（1996）「日本語条件表現史の研究」ひつじ書房
- 有田節子（2007）「日本語条件文と時制節性」くろしお出版
- 林芳琪「条件表現ーと、ば、たら、なら」
http://www.fjweb.fju.edu.tw/fbj/research/report/94_1/94-1zyouken.pdf
- 三井はるみ「条件表現」
www.ninjal.ac.jp/takoni/DGG/06_jookenhhyoogen.pdf